

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (多文化共生・多様性コース)		訪問国	ニュージーランド	
学校名	静岡県立小山高等学校	氏名	平山佳誉	学年	2

1 留学を決意したきっかけ

私達は高校一年時に、二つの探究活動を行いました。

一つ目に、静岡新聞主催のしずおか新聞感想文コンクールに応募し、LGBTQ+の人々に向けたパートナーシップ制度の一つである縁故者制度の普及に、静岡県内の西部と東部に差があり、西高東低の状態であることを知りました。

二つ目に、静岡大学主催の伊豆半島探究学習サミットに参加し、「女子は文系、男子は理系に特性がある」というジェンダーの固定観念を検証すべく、小山高校の一年生 108 人を対象にアンケート調査を行い、結果を発表しました。そこでは先述の固定観念の通り、女子は文系を選択する傾向があり、また男子は理系を選択する傾向があることを明らかにしました。

これら二つの探究学習を通して、ジェンダー平等と LGBTQ+ の探究をさらに深め、地域社会の課題解決に貢献したいという思いが強くなり、留学を決意しました。

2 留学のテーマ・目的

私達はジェンダーと LGBTQ+ に関する探究学習を行いました。具体的に、「ニュージーランドがジェンダーギャップ指数世界第 4 位を誇る理由は何か」と「ニュージーランドの社会が LGBTQ に寛容なのはなぜか」という 2 つの問いを立てました。これら二つの問いのもと、「学校教育におけるジェンダーと LGBTQ の言説—日本とニュージーランドの比較」というテーマを掲げ、3 週間の探究留学をさせていただきました。

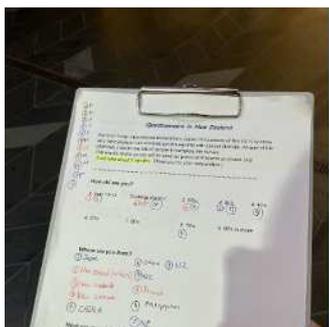
前述の通り、ニュージーランドはジェンダー平等に先進的であると同時に、国民における性的マイノリティの占める割合が世界第 5 位という、LGBTQ + 大国でもあります。

これらの理由から、ニュージーランドを探究の場に設定しました。

3 探究方法

探究方法として、主に街頭アンケート調査を行いました。「現地の人々のジェンダー平等に対する意識」「高校生の文理選択」また「性的マイノリティに対する意識」を調査する 3 つのアンケートを、語学学校と両立して行いました。また、語学学校で LGBTQ+ の授業を履修し、オークランド歴史博物館を訪問しました。

アンバサダー活動としては、アンケート調査の際、回答に協力していただいた人に日本のお菓子(抹茶味のキットカット、ハイチュウなど)を配り、日本の魅力を伝える活動を行いました。



↑ アンケート調査用紙



↑ アンケート調査の様子①

4 探究活動の成果

3 週間の留学期間中に行った街頭アンケート調査結果は次のようになっています。「現地の人々のジェンダー平等に対する意識」が 56 人、「高校生の文理選択」が 72 人、「性的マイノリティに対する意識」が 26 人の、合計 154 人に回答していただくことができました。

また、語学学校の授業や歴史博物館訪問を通して、ニュージーランドの文化背景について知ることができました。

↓アンケート結果を示したグラフ

5 アンケート調査の結果

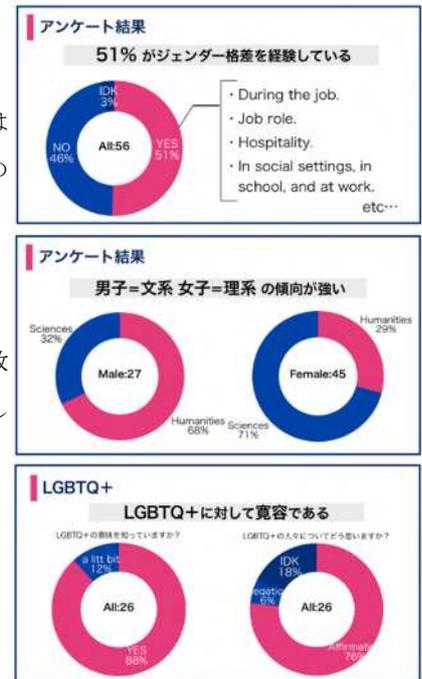
3 種類のアンケートそれぞれの結果は、次のようになっています。まず、「現地の人々のジェンダー平等に対する意識」のアンケートです。このアンケートでは「あなたはニュージーランドで男女の格差を感じた経験はあるか」という内容の質問を行い、あると回答した場合には、具体的な場面を記述してもらいました。調査の結果、全体の 51% もの人が、男女の格差を経験したことがある、と回答しました。具体的な場面として多く挙げられたのは、職場における役割分担、または学校や医療現場という意見です。このことから、ジェンダーギャップ指数第 4 位を誇るニュージーランドの社会であっても、実際には男女の格差が存在していることがわかりました。

次に、「高校生の文理選択」のアンケートです。このアンケートでは、小山高校で行ったアンケートと同様に、現地の高校生を対象に「あなたは文系か理系のどちらか、またはどちらが得意か」という質問をしました。調査の結果、男子生徒のうち、6 割が文系、女子生徒のうち、7 割が理系であることが明らかになりました。これは、小山高校で行ったアンケート結果と真逆の傾向を示しています。

そして、「性的マイノリティに対する意識」のアンケートです。このアンケートは、「あなたは LGBTQ+ それぞれの意味を知っているか」また「あなたは LGBTQ+ に対して肯定的か否定的か」という質問を行いました。調査の結果、全体の 9 割が LGBTQ+ それぞれの頭文字の表す意味を把握しており、LGBTQ+ が広く認知されていることがわかりました。また、7 割が LGBTQ+ に対して肯定的な意見を持っていることがわかりました。

6 考察、まとめ

今回の結果から、年齢を問わず多くの人々が性的マイノリティに対して寛容な態度である一方、ニュージーランド社会にはジェンダーギャップ指数とは裏腹に、ジェンダー格差が存在することがわかりました。課題として、ジェンダー平等先進国であっても男女の格差が存在するという事実、また文理選択において、日本と逆のジェンダーバイアスがある可能性が残されました。これらの課題を解決する方法を模索することで、真の男女平等社会、多様性社会を実現したいと考えています。今回の留学では、ニュージーランドの多様性に溢れた社会を構成する要因の発見に至ることはできませんでしたが、しかし今回得られた結果をもとに、今後も探究を深めていきたいです。



↑アンケート調査を行ったブリトーマート駅



↑オークランド博物館の LGBTQ フレンドリーステッカー



↑アンケート調査の様子②